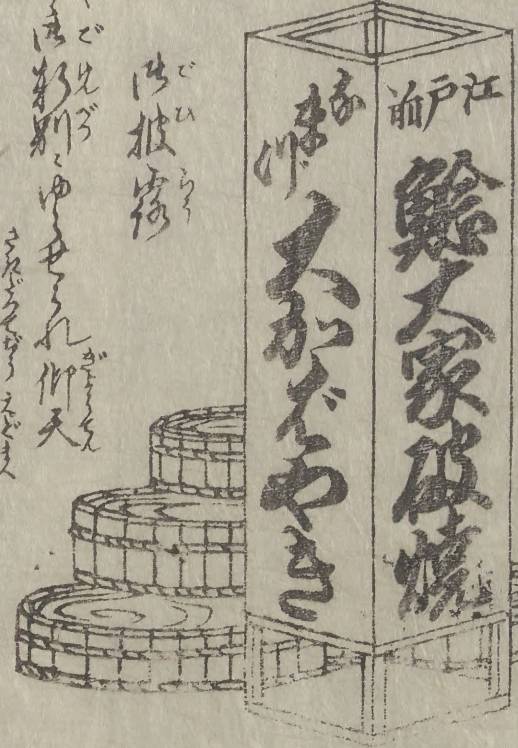
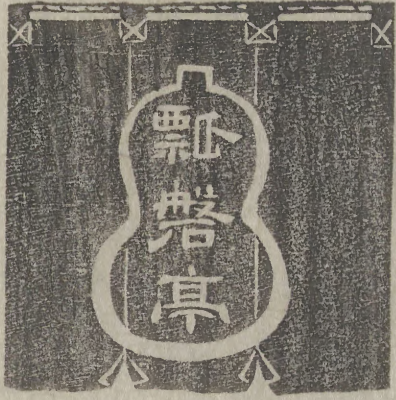




○ 打身 即席より中う活 火事仕 井家要所務



御町中様 万葉集は新刊のゆゑこれ仰天
 地獄の惨状は表づきのわが義先達中江右前
 餘大家破焼自身大道をたはし所を里出焼失より
 家身代迄はゆりげ 動揺の何れは火災時よく
 古今子有くても損は極又今幾は愁ひの市市中の金也
 は末どうせう汁 打身骨板即席より中う活 取合格所
 用儀宜く世直仕差より市氏の電はは機とく
 以威光ゆる経一偏より上以上

市北うあき酒 以威光ゆる経一偏より上

北末どうせう汁 こころいふ

卯十月二日夜ふあき酒 神座鹿島町
 見勢ゆき焼失 か茶同屋石蔵
 廉おあき上り



